

介護福祉科

実務的科目一覧

※色で塗られている科目が、今年度配置されている実務経験のある教員による授業科目

介護福祉科

	授業科目	区分	単位	時間	1年次		2年次	
					前期	後期	前期	後期
人間と社会	人間の理解	講義	2	30	30			
	人間関係とコミュニケーション	講義	2	60	30	30		
	社会と制度の理解 I	講義	2	30		30		
	社会と制度の理解 II	講義	2	30			30	
	国語表現	講義	2	30	30			
	地域福祉論	講義	2	30			30	
	福祉情報処理	演習	4	60			30	30
介護	介護の基本 I	講義	4	60	30	30		
	介護の基本 II	講義	4	60			30	30
	介護の基本 III	講義	4	60				60
	コミュニケーション技術	講義	4	60	30	30		
	生活支援技術A(実技基礎)	実技	2	60		60		
	生活支援技術B(実技応用)	実技	2	60			60	
	生活支援技術C(被服20・住居10)	演習	4	60	60			
	生活支援技術D(栄養/調理)	演習	4	60				60
	生活支援技術E(重複障害者の介護)	講義	2	30		30		
	生活支援技術F(内部障害)	講義	2	30			30	
	介護過程 I	講義	4	60		60		
	介護過程 II(ケアマネジメント)	講義	2	30			30	
	介護過程 III(演習)	演習	4	60				60
	介護総合演習 I	講義	4	60	30	30		
	介護総合演習 II	講義	4	60			30	30
	介護実習(最終実習に夜勤1回含む)	実習	15	456	80	176	200	
	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	講義	4	60	30	30	
認知症の理解		講義	4	60	30	30		
障害の理解 I		講義	2	30	30			
障害の理解 II		講義	2	30			30	
こころとからだのしくみ I		講義	4	60	30	30		
こころとからだのしくみ II		講義	4	60			30	30
機能的解剖学		講義	2	30		30		
医療的ケア	医療的ケア I	講義	2	34	34			
	医療的ケア II	講義	2	34			34	
	医療的ケア III(演習)	演習	4	60				60
			111	1994	474	596	564	360
選択	整体療法学	実技	2	60			60	
			113	2054	474	596	624	360
	今年度配置されている実務経験のある教員による授業科目		85	1604	384	506	504	210

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会と制度の理解Ⅱ ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

本授業では、障害者支援の法制度を理解するとともに、人々の権利を擁護する制度や医療保険制度を始め介護に関わる医療関係者との連携に必要な法規などについて学び、担当教員の実務経験を基に、実際のサービス・制度利用者の事例を参考にしつつ、介護実践に関わる基礎的知識を習得する。

2 到達目標

- ① 障害者が地域で自立した生活を送るために、どのような法制度が整備されて運用されているのか理解することができる。
- ② 高齢者や障害者を始め、人々が有する権利などを理解し、障害者や高齢者などが安心して地域で暮らしていくための法制度を学び、生活を支えるための基礎的知識を習得することができる。

3 授業の方法

教科書、その他の資料を用いながら、講義形式で進めていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%
レポート	20%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験及びレポートの提出、受講姿勢をもとに評価を行います。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書には多くの知識が書かれています。授業前後にしっかりと読み込んでください。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 社会の理解 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

分かりやすいように授業を進めていきますので、しっかり授業に参加してください。また、分からない点があれば、積極的に確認してください。

9 教員氏名 （ 山崎 紘史 ）

所 属 （ 社会福祉法人 実寿徳会 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて社会福祉士として勤務 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会と制度の理解Ⅱ ）

回数	授業内容
1	第3章 介護保険制度 第2節 介護保険のしくみ②
2	第3章 介護保険制度 第3節 介護保険制度にかかわる組織とその役割
3	第3章 介護保険制度 第4節 介護保険制度における専門職の役割
4	第3章 介護保険制度 第5節 介護保険制度改正の流れと地域包括ケア
5	第4章 障害者の支援を担う法制度 第1節 障害者の自立と障害者自立支援制度の目的
6	第4章 障害者の支援を担う法制度 第2節 障害者福祉施策の動向
7	第4章 障害者の支援を担う法制度 第3節 障害者自立支援制度のしくみ
8	第4章 障害者の支援を担う法制度 第4節 障害者自立支援にかかわる組織とその役割
9	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第1節 人々の権利を擁護する諸制度
10	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第2節 保健医療にかかわる諸施策
11	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第3節 医療にかかわる法と諸施策
12	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第4節 生活を支える諸制度のあらまし
13	第5章 介護実践にかかわる諸制度 第5節 高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度
14	講義振り返り・ポイント復習・レポート
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 地域福祉論 ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

誰もが暮らしやすい社会を目指して、障害があるからという理由で不便な生活を送ることがなくなるためにはどうしたらいいか、一緒に考え学習していく。

2 到達目標

障害を知り、社会資源を知り、障害のある方の個の力を引き出す力を考え、介護福祉士として何ができるかを考えることができる。

3 授業の方法

パワーポイント資料による講義の他、講義内容に関連する課題に対するグループワーク等を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験	70%
小テスト（レポート）	20%
授業態度	10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、受講態度、発言の信頼性、出欠席をもとに評価する（居眠り厳禁）。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料を復習することにより、さらに知識を深める。

7 使用教材，教具

テキストは特に指定なし。必要に応じて資料（プリント）を配付。

8 学生へのメッセージ

積極的に学び、福祉、障害に向き合えるきっかけになることを期待する。

9 教員氏名 （ 城戸 修一 ）

所 属 （ 社会福祉法人 ウイキャン・サポート ）

実務経験の詳細 （ 福祉施設にて社会福祉士として勤務 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (地域福祉論)

回数	授業内容
1	オリエンテーション・『障害』について
2	障害者の災害支援について
3	身体障害者の歴史 身体障害者の特性とその支援
4	施設見学・スポーツレクを体験しよう①
5	施設見学・スポーツレクを体験しよう②
6	障害福祉センター説明・スポーツ紹介
7	ストレングスについて
8	社会資源を知る(バリアフリー)・インフォーマル支援を考える
9	福祉サービスを知る
10	精神障害者の特性とその支援
11	知的障害者の特性とその支援
12	ピアカウンセリングについて(当事者を知る)
13	障害者虐待についてその対策と支援・アンガーマネジメントについて
14	ケアマネジメント演習
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護の基本Ⅲ ）

学科名 介護福祉科
学年 2年

- 1 授業の内容
介護の基本Ⅰ・Ⅱで学習したことを振り返り、カリキュラムにおける領域「介護」の分野に含まれる福祉の歴史、制度、法律などを中心に復習する。
国家試験対策に準じた授業を行う。
- 2 到達目標
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を理解できる。
国家試験合格に必要な試験問題の読解力を身に付ける。
- 3 授業の方法
現場で求められる専門的知識を理解し、身に付ける。国家試験対策として、国家試験過去問題、模擬問題を中心に講義・解説を行う。
- 4 成績評価方法・基準
定期試験 60% 小テスト 20% 授業態度 20%
- 5 評価の際の特記事項
国家試験に向けた重要な位置づけの授業であるため、国家試験合格に向けた学習意欲を含めて評価する。
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
授業内で取り組んだ問題は解説を行うが、教科書・参考書等による自己学習を行い、確実な知識の定着を図る。
- 7 使用教材、教具
配布資料、介護福祉士国試ナビ、その他授業内で指定した教材
- 8 学生へのメッセージ
解説した問題については確実に見直し、同様の問題は確実に正解できる力を身に付ける必要があります。そのためには授業内容だけでは不十分です。確実に知識を定着させるための自己学習の習慣を身に付けましょう。
- 9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 ）
所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）
経 験（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）
- 10 特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護の基本Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	理解度チェックテスト・解説
3	介護の基本についての整理
4	介護の基本分野の模擬問題, 解答解説
5	介護保険, 社会保障関連についての整理
6	介護保険, 社会保障関連の模擬問題, 解答解説
7	介護の基本分野の模擬問題, 解答解説
8	介護の基本分野の模擬問題, 解答解説
9	障害者総合支援法関連についての整理
10	障害者総合支援法関連の模擬問題, 解答解説
11	国家試験模擬問題午後の部解説
12	国家試験模擬問題午後の部解説
13	国家試験模擬問題午後の部解説
14	国家試験模擬問題午後の部解説
15	国家試験模擬問題午後の部解説
16	国家試験模擬問題午後の部解説
17	介護保険法についての整理
18	介護保険法についての整理
19	介護過程, 尊厳, 自立支援関連の模擬問題解説
20	介護過程, 尊厳, 自立支援関連の模擬問題解説
21	障害者総合支援法関連模擬問題解説
22	障害者総合支援法関連模擬問題解説
23	生活支援技術関連模擬問題解説
24	生活支援技術関連模擬問題解説
25	尊厳, 自立支援関連○×問題
26	制度関連○×問題
27	介護の基本関連○×問題
28	生活支援技術関連○×問題
29	まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（生活支援技術B（実技応用））

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

介護サービスを提供するあらゆる場面で汎用できる基本的な介護の技術を理解する。尊厳の保持や自立・自律を尊重し潜在能力を引き出すことができる。見守り介助などを含め、適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識を身につける。

2 到達目標

- ①生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立の支援の観点から根拠に基づいた介護が実践できるようになる。
- ②利用者の自立した生活の支援のために適した介護計画を立案し、状況に合わせて計画的に技術および福祉用具を選択、活用することができるようになる。
- ③終末期の経過に沿った支援とチームケア・チームアプローチについて役割を実践できるようになる。

3 授業の方法

普通教室にて講義，介護実習室にて実技の授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 40% 事例検討（実技） 40% 授業態度 10% 授業への貢献度 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度やグループワークでの役割などを考慮します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内でおこなった学習を放課後や自宅でも振り返り，繰り返し練習することで身につけるようにしてください。また，国家試験に出題されるキーワードについては，教科書にマーカーをつけ覚えるようにします。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

授業内でも声をしっかり出していきましょう。

9 教員氏名（谷口 幸太郎／井手口 弘明）

所 属（こころ医療福祉専門学校 介護福祉科）

経 験（両名とも介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 生活支援技術B（実技応用） ）

回数	授業内容
1	食事の介護
2	食事の介護
3	食事の介護
4	食事の介護
5	排泄の介護
6	排泄の介護
7	排泄の介護
8	排泄の介護
9	排泄の介護
10	排泄の介護
11	排泄の介護
12	排泄の介護
13	人生の最終段階における介護
14	人生の最終段階における介護
15	人生の最終段階における介護
16	人生の最終段階における介護
17	事例に基づく介護技術の検討
18	事例に基づく介護技術の検討
19	事例に基づく介護技術の検討
20	事例に基づく介護技術の検討
21	事例に基づく介護技術の検討
22	事例に基づく介護技術の検討
23	介護技術に関する事例検討発表
24	介護技術に関する事例検討発表
25	入浴・清潔保持の介護
26	入浴・清潔保持の介護
27	入浴・清潔保持の介護
28	入浴・清潔保持の介護
29	まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術D（栄養／調理） ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の概要

食文化や食生活の変化をはじめ、介護福祉士が食の支援を行う上で必要な知識を学習する。担当教員の実務経験を基に、実際の介護現場を想定しつつ、介護を要する方への「食」の支援に必要な知識、技術を身につける。

2 到達目標

それぞれの授業について、キーワードを5個あげて、それについて簡単な説明ができ、調理実習の手順を理解し、料理をきれいに盛りつけできる。

3 授業の方法

栄養、調理に関する知識を深めるため、座学を行った後、実際に調理室にて実習を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験	55%	レポート	5%
小テスト	10%	授業態度	20%
調理実習試験	10%		

5 評価の際の特記事項

授業の出席率、質問の返答、調理実習の積極性も重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

「調理」ができるだけでなく、必要な栄養を提供できるよう、栄養に関する知識を身につける必要があります。事前に教科書を読むこと、授業後にも教科書、配付資料の読み直し、小テストの復習を行ってください。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術 I 中央法規出版
授業内配付プリント

8 学生へのメッセージ

日常生活の中で、「食」を意識して、授業に臨んでください。調理実習のための忘れ物がないようにしてください。遅刻、欠席をすると授業についていけなくなりますので注意してください。

9 教員氏名（ 山崎 佳代 ）

所 属（ 介護老人福祉施設 牧島荘 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて管理栄養士として勤務 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (生活支援技術D (栄養/調理))

回数	授業内容
1	食文化・食生活・栄養の理解
2	調理実習(調理の基本)
3	栄養の理解
4	調理実習(調理の基本・食品の保存・食品衛生)
5	献立の立て方・食品の購入と選択
6	調理実習(調理の基本, 食品衛生)
7	食品の調理性
8	調理実習
9	高齢者の身体機能と栄養
10	調理実習(高齢者の食事と調理)
11	障害のある人の栄養と食生活
12	調理実習
13	調理実習(楽しい食事の演出)
14	調理実習(楽しい食事の演出)
15	疾患と食事
16	調理実習
17	食生活に関する施策について
18	調理実習
19	調理の支援とは何か
20	調理プロセスとアセスメント
21	利用者宅での調理方法と進め方
22	調理実習
23	施設における調理介助
24	調理実習
25	調理上のさまざまな工夫や活用
26	調理実習
27	ともに行う介護の視点
28	調理実習
29	まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術F（内部障害） ）

学科名 介護福祉科
学年 2年

1 授業の内容

障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，障害のある人の地域での生活を理解し，本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習させる。

また，その人の状況に合わせた介護を行い，障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように，現在の状態を把握し潜在能力を引出し，自立を目指して，できる可能性を伸ばしていく個別性を重視した介護の展開について学んでいく。

2 到達目標

身体的な理解と心理的な理解に加え，介護を要する人たちが尊厳を持って，日々その人らしく暮らしていけるように支援するための考え方や技法を習得できるよう学習を行う。生活全体を見ながらどのように生活をしていきたいのか，どのように支援することが適切か，潜在能力が導き出せるかなどに着目し，状況に応じた介護技術が提案できる。

3 授業の方法

教科書使用し，国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 70% 授業態度 10% 小テスト 20%

5 評価の際の特記事項

小テストでの，障害に応じた介護のポイント確認。グループワークでの積極性を判断する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書の予習・復習をすること。授業で配布する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術Ⅲ 中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座（第2版） 障害の理解 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

こころとからだのしくみ，発達と老化の理解との関連を意識すると理解が深まる。

9 教員氏名（ 吉田 直美 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（生活支援技術F（内部障害））

回数	授業内容
1	心臓機能障害の理解
2	心臓機能障害の方の観察の視点・支援の展開
3	呼吸機能障害の理解
4	呼吸機能障害の方の観察の視点・支援の展開
5	腎機能能障害の理解
6	腎臓機能障害の方の観察の視点・支援の展開
7	膀胱・直腸機能障害の理解
8	膀胱・直腸機能障害の方の観察の視点・支援の展開 パウチ交換
9	小腸機能障害の理解 小腸機能障害の方の観察の視点・支援の展開
10	HIV 感染症の理解 観察の視点・支援の展開
11	肝臓機能障害の理解
12	肝臓機能障害の方の観察の視点・支援の展開
13	重症心身障害児の理解 観察の視点・支援の展開
14	全体まとめ
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護過程Ⅱ（ケアマネジメント） ）

学科名 _____ 介護福祉科

学年 2 年

1 授業の概要

介護過程の展開の理解し、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を取得する学習とする。

また、ケアマネジメントについて学び、ケアプランと介護計画（個別援助計画）の関係性と違いを理解するための学習を行う。

2 到達目標

①介護計画（個別援助計画）の立案に向けて、根拠に基づいた課題の抽出および目標を立案できる。

②5W1Hを踏まえた、介護計画（個別援助計画）を立案できる。

3 授業の方法

教科書、参考事例を基に事例検討等、講義、演習を行う。

4 成績評価方法・基準

提出物（事例検討） 70% 授業態度 10% 演習への取り組み 20%

5 評価の際の特記事項

提出物（事例検討）は15回目の提出物で評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

介護過程Ⅰの内容を理解していることが前提の授業になります。教科書等でしっかりと復習を行いましょう。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 介護過程 中央法規出版、配付資料

8 学生へのメッセージ

第3段階実習に向けて、介護過程の展開の一連のプロセスをしっかりと理解しましょう。

9 教員氏名（ 谷口 幸太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護過程Ⅱ（ケアマネジメント） ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション ケアマネジメント
2	ケアプランと介護計画
3	ケアマネジメントの流れ
4	介護計画の立案について①
5	介護計画の立案について②
6	介護計画の立案(演習)
7	介護計画の立案(グループ演習)
8	介護計画の立案(グループ演習)
9	介護計画の実施・評価
10	事例から介護計画の立案1－①
11	事例から介護計画の立案1－②
12	事例から介護計画の立案1－③
13	事例から介護計画の立案2－①
14	事例から介護計画の立案2－②
15	事例から介護計画の立案2－③

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習 ）

学科名 介護福祉科

学年 1, 2年

1 授業の概要

福祉施設にて1年次に10日間(第1段階)、22日間(第2段階)の実習を、2年次に25日間(第3段階)の介護実習を行う。

2 到達目標

【第1段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を理解する。
- イ 介護が必要な人のニーズやさまざまな暮らしの場を理解する。
- ウ 介護施設、ならびに介護福祉職の一般的な役割について理解する。
- エ コミュニケーションの基礎的な技術を実践することができる。
- オ 尊厳を支えるケアや本人主体の自立支援の理解を深めることができる。

【第2段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を実践できる。
- イ 一人の利用者に関するアセスメントをし、生活課題を明確化できる。
- ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を模倣できる。
- エ 介護現場における多職種協働・連携について理解することができる。
- オ コミュニケーション能力の向上につとめ、利用者及び職員と人間関係を構築することができる。

【第3段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。
- イ 利用者の個別性を理解した上で、介護過程を展開することができる。
- ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を選択し、実施できる。
- エ 様々な介護福祉関連業務を経験することができる。
- オ 介護現場における地域とのつながりについて理解することができる。

3 授業の方法

介護を必要とする人への支援のあり方や関わりについて、各授業で習得した知識や技術を用いて実際の介護現場で見学、模倣、実施から学ぶ実習である。

4 成績評価方法・基準

実習評価表 30% 巡回指導時の学習態度 20% 実習記録 20% 実習成果物 30%

5 評価の際の特記事項

評価はすべての実習が終了した2年次後期に行います。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各科目の教科書、実習の手引き、実習施設の資料など熟読すること。

7 使用教材、教具

介護実習の手引き、配布資料

8 学生へのメッセージ

何を学びたいのか明確にした上で、積極的に取り組みましょう。

- 9 教員氏名 (谷口 幸太郎, 吉田 直美, 廣瀬 佑)
 所 属 (こころ医療福祉専門学校 介護福祉科)
 実務経験の詳細 谷 口：介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり
 吉 田：病院, 介護施設にて看護師として勤務経験あり

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (介護実習)

回数	授業内容
第1段階	【実習期間, 時間】 第1段階実習 1年次7月 80時間 (1日8時間×10日間)
	【実習内容】 第1段階実習は、コミュニケーションを中心に、介護が必要な人のニーズや暮らしの場の理解、並びに介護福祉職の一般的な役割について理解をする。また、様々な対象者へのケアを見学し、個々に応じた生活支援技術の実際を学び、尊厳を支えるケアや介護に本人主体の自立支援についての理解を深める。
	【実施項目】 ア 介護を必要とする人とのコミュニケーションを経験する。 イ 介護実践の現場における生活支援技術を見学する。
第2段階	【実習期間, 時間】 第2段階実習 1年次2～3月 176時間 (1日8時間×22日間)
	【実習内容】 第2段階実習は、介護過程におけるアセスメントを行い、生活課題の明確化まで行う実習です。一人の利用者への直接的な情報収集や他職種、介護記録等からの間接的な情報収集を通して、生活の全体像や本人の思い（ニーズ）を理解し、生活課題を明確化していきます。また、様々な利用者へのケアを通して、個々に応じたコミュニケーションの実践、生活支援技術の模倣、実施を経験し、技術の向上につとめます。
	【実施項目】 ア 介護過程におけるアセスメントを実施する。 イ 個別の状況に応じた生活支援技術を見学、及び模倣する。 ウ 様々な対象者に応じたコミュニケーションを、学んだ技術を用いて実践する。 エ 介護現場におけるレクリエーションを経験する。(可能な場合に限る)
第3段階	【実習期間, 時間】 第3段階実習 2年次8～9月 200時間 (1日8時間×25日間)
	【実習内容】 第3段階実習は、介護過程の展開を実践する実習です。一人の利用者に対して、「アセスメント→介護計画の立案→介護の実施→評価」を行い、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程の展開を実践的に学ぶと共に、介護福祉士の専門性について理解を深めます。また養成課程最後の実習であり、これまで授業で学んだ知識や技術を統合した上で、介護福祉職として必要な知識・技術の習得・向上につとめます。
	【実施項目】 ア 一人の対象者に関するアセスメントを行い、介護計画を作成する。 イ 作成した介護計画をもとに、介護の実施を行い、評価を行う。 ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を模倣、及び実施する。 エ 早出・遅出・夜勤等の業務を経験する。(可能な場合に限る) オ レクリエーションを企画し、実施する。(可能な場合に限る)

シラバス（授業計画書）

科目名（ ころとからだのしくみⅡ ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習

2 到達目標

- ・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。
- ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、ころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。
- ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。

3 授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書を使用し、講義内容を、国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 40% 中間試験 40% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

小テストも評価します。通年科目ですが、前期終了時に中間試験を実施します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。9月からは、国家試験対策都して補講を実施する。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） ころとからだのしくみ 中央法規出版
介護福祉士国家試験模擬試験問題集

8 学生へのメッセージ

人が生活をするうえで、心と体はどのように働くのか示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を学びます。さらに疾病の発生のメカニズムを学ぶことによって、「予防の視点」を身につけましょう。また、移動、身支度、食事、入浴、排泄、睡眠等の生活場面ごとに、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントを知りましょう。国家試験に備えて苦手分野の克服、自信をもって国家試験に臨めるよう数多くの問題に挑戦しましょう。

9 教員氏名 (吉田 直美)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 介護福祉科)

実務経験の詳細 (病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (ころとからだのしくみⅡ)

回数	授業内容
1	復習 からだのしくみの理解: 人体の各名称・構造・脳神経
2	復習 からだのしくみの理解: 循環器・呼吸器・消化器
3	復習 からだのしくみの理解: 泌尿器・骨・筋肉
4	復習 からだのしくみの理解: 生殖器・内分泌・バイタルサイン
5	復習 ころのしくみの理解: マズローの欲求階層説・適応規制
6	復習 ころのしくみの理解: 認知・記憶・
7	復習 からだのしくみの理解: 確認テスト
8	復習 身じたくに関連したころとからだのしくみ
9	復習 移動に関連したころとからだのしくみ
10	復習 食事に関連したころとからだのしくみ
11	復習 入浴に関連したころとからだのしくみ
12	復習 排泄に関連したころとからだのしくみ
13	復習 睡眠に関連したころとからだのしくみ
14	復習 死にゆく人のころとからだのしくみ
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	ころとからだのしくみ 模擬試験過去問(中央法規①)
18	解説①
19	ころとからだのしくみ 模擬試験過去問(中央法規②)
20	解説②
21	ころとからだのしくみ 模擬試験過去問(中央法規③)
22	解説③
23	ころとからだのしくみ 模擬試験過去問(中央法規④)
24	解説④
25	ころとからだのしくみ 模擬試験過去問(介護福祉士会①)
26	解説①
27	ころとからだのしくみ 模擬試験過去問(介護福祉士会②)
28	解説②
29	ころとからだのしくみ 模擬試験過去問(学力評価試験①)
30	解説①
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（医療的ケアⅡ）

学科名 介護福祉科
学年 2年

1 授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2 到達目標

- ①喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。
- ②経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。
- ③安全な喀痰吸引・経管栄養の実施の為、確実な手技を習得する。

3 授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義のほか器具の名称、感染対策、手順を理解させる為座学以外に演習も行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。授業態度は重視します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実際の演習はできませんが、器具の名称、手順はシミュレーションが必要です。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 医療的ケア 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成27年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。

厳しいですが、命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

9 教員氏名 （ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて看護師としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (医療的ケアⅡ)

回数	授業内容
1	医療的Ⅰの分野の振り返り① (呼吸器系・消化器系のしくみ)
2	医療的Ⅰの分野の振り返り② (介護保険制度・障害者総合支援法について)
3	医療的Ⅰの分野の振り返り③ (健康状態・バイタルサイン)
4	喀痰吸引(基礎知識・実施手順)
5	喀痰吸引(基礎知識・実施手順)
6	喀痰吸引(基礎知識・実施手順)
7	喀痰吸引(基礎知識・実施手順)
8	経管栄養(基礎知識・実施手順)
9	経管栄養(基礎知識・実施手順)
10	経管栄養(基礎知識・実施手順)
11	経管栄養(基礎知識・実施手順)
12	喀痰吸引の手引き
13	経管栄養の手引き
14	医療的ケアの分野の国家試験過去問実施・解説
15	医療的ケアの分野の国家試験過去問実施・解説
16	これまでのまとめ
17	定期試験
18	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療的ケアⅢ 演習 ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2 到達目標

- ①喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解の確認とし演習を実施。
- ②経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解の確認とし演習を実施。
- ③安全な喀痰吸引・経管栄養の実施の為、確実な手技を習得状況を確認する。

3 授業の方法

- ・ 喀痰吸引：口腔（5回以上）、鼻腔（5回以上）、気管カニューレ内部（5回以上）
 - ・ 経管栄養：胃ろう又は腸ろう（5回以上）、経鼻経管栄養（5回以上）
- ※併せて、救急蘇生法演習についても1回以上実施する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

命に係わる授業であるため、授業態度は厳しく判断します。

授業の方法にある各5回の演習を修了したもののみ、実技試験を受験できます。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

追加演習を繰り返し、確実に実施できるようになること。そのため時間外の指導も行います。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版）	こころとからだのしくみ	中央法規出版
最新・介護福祉士養成講座（第2版）	医療的ケア	中央法規出版

8 学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成27年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。厳しいですが、命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

9 教員氏名（ 吉田 直美 / 中島 幹子 ）

所 属（ 吉田：こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 吉田/中島：病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある通常教員による授業科目

科目名 (医療的ケアⅢ 演習)

回数	授業内容
1	演習オリエンテーション 喀痰吸引 5 回以上:経管栄養 5 回以上必須 演習①
2	喀痰吸引・経管栄養・ ②
3	喀痰吸引・経管栄養・ ③
4	喀痰吸引・経管栄養・ ④
5	喀痰吸引・経管栄養・ ⑤
6	喀痰吸引・経管栄養・ ⑥
7	喀痰吸引・経管栄養・ ⑦
8	喀痰吸引・経管栄養・ ⑧
9	喀痰吸引・経管栄養・ ⑨
10	喀痰吸引・経管栄養・ ⑩
11	喀痰吸引・経管栄養・ ⑪
12	喀痰吸引・経管栄養・ ⑫
13	喀痰吸引・経管栄養・ ⑬
14	喀痰吸引・経管栄養・ ⑭
15	喀痰吸引・経管栄養・ ⑮
16	喀痰吸引・経管栄養・ ⑯
17	喀痰吸引・経管栄養・ ⑰
18	喀痰吸引・経管栄養・ ⑱
19	喀痰吸引・経管栄養・ ⑲
20	喀痰吸引・経管栄養・ ⑳
21	喀痰吸引・経管栄養・ ㉑
22	喀痰吸引・経管栄養・ ㉒
23	喀痰吸引・経管栄養・ ㉓
24	喀痰吸引・経管栄養・ ㉔
25	喀痰吸引・経管栄養・ ㉕
26	バイタル測定 ・実施
27	救急蘇生法 急変時の対応実践 報告
28	実技試験
29	実技試験
30	まとめ・評価

シラバス（授業計画書）

科目名（ 整体療法学 ）

学科名 介護福祉 科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学や経穴を合わせながら、体へ触れることに慣れ、基礎的な手技を学ぶ。

2 到達目標

施術部位の解剖がイメージでき、基礎的な手技と筋肉への正しいアプローチ方法を習得する。

3 授業の方法

資料や模型を使用しながらの骨・筋肉を理解する。施術ペアを組み、学んだ手技を繰り返し練習する。手技チェックあり。

4 成績評価方法・基準

実技試験 50%、定期試験 50%

5 評価の際の特記事項

定期試験は解剖学の筆記試験を実施。

実技試験は施術習得度合いの確認や正確性を総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

施術練習では骨や筋肉名で説明するので、解剖学の理解は必須です。

手技に関しては授業外でも復習することで技術力 UP につながります。

7 使用教材，教具

参考資料や施術写真などをまとめたテキストを配布します。骨・筋肉模型を利用するときもあります。

8 学生へのメッセージ

施術される前と後の体験をして、自分自身がそれを実践して体がほぐれる感覚や相手に喜んでもらえる嬉しさを感じ取ってほしいです。習得した技術や知識は現場でも活かせると思います。また、高齢者の方を相手にしますので常に危険と隣り合わせという意識を持って授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所で施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (整体療法学)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	基本手技
3	手技の効果
4	足関節、足底部、下腿部の手技
5	整体療法のできること、できないこと
6	膝窩部、大腿部の手技
7	整体療法の禁忌、注意事項
8	股関節、臀部、仙骨部の手技
9	全身骨格
10	腰部、背部の手技
11	動く結合、動かない結合
12	脊柱の手技
13	関節の種類
14	肩甲部、肩部、上肢部の手技
15	体幹骨の種類と構造
16	頸部、頭部、顔部の手技
17	四肢骨の種類と構造
18	胸部、腹部の手技
19	筋の構造
20	下半身の手技(応用)
21	筋の種類
22	上半身の手技(応用)
23	体幹筋の種類と機能
24	仰臥位の手技
25	上肢筋の種類と機能
26	総合手技
27	下肢筋の種類と機能
28	実技復習
29	定期試験(筆記)
30	定期試験(実技)
31	試験解説(筆記)
32	試験解説(実技)

シラバス（授業計画書）

科目名（ 人間の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の概要

人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

2 到達目標

- ①「人間の尊厳」について体験や事例から、自分の意見を表現することができる。
- ②「自立」について、本人主体の観点から、自己決定、自己選択の考え方を理解し、体験や事例から、自分の意見を表現することができる。

3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義やグループワークを中心に行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%	授業態度	15%
提出物	15%	授業への貢献度	10%

5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワークでの司会、発表などの実績を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

「考える」ことが多い授業です。事前に教科書を読んでおいてください。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 人間の理解 中央法規出版 配付資料

8 学生へのメッセージ

単に用語やトピックの説明を覚えるのではなく、なぜそう考えるのか、自分はそれをどう現実化したいのかを思索しながら、介護福祉の理念について理解を深めましょう。

9 教員氏名 （ 谷口 幸太郎 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 人間の理解 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	価値観から考える他者理解
3	人間の尊厳とは
4	人権について
5	人権思想と福祉の理念①
6	人権思想と福祉の理念②
7	ノーマライゼーションとは
8	ノーマライゼーションについて考える
9	QOLについて
10	権利擁護について
11	自立とは
12	介護を必要とする人の自立
13	ICF と ICIDH
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会と制度の理解Ⅰ ）

学科名 介護福祉科
学年 1年

1 授業の内容

本授業では、日常にある福祉の内容を理解し、その制度がどのような歴史的背景の中に誕生し変化してきたのか、また、私たちの生活とどのように結びついているのか、ということについて理解を深める。担当教員の実務経験を基に、実際のサービス・制度利用者の事例を参考にしつつ、社会保障や各福祉に関する諸制度の内容・仕組みなどを学びながら福祉の諸制度についての基礎的知識を習得する。

2 到達目標

- ① 生活の中にある福祉をライフステージごとに学ぶ事により、理解することができる。
- ② 社会保障の役割と意義、制度の歴史的背景など制度全体の内容を理解し、相談業務など介護を実践するうえで必要な知識を習得することができる。
- ③ 介護保険制度の創設目的や運用について理解することにより、介護実践の基礎を身につけることができる。

3 授業の方法

教科書、その他の資料を用いながら、講義形式で進めていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% レポート 20% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

定期試験及びレポートの提出、受講姿勢をもとに評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書には多くの知識が書かれています。授業前後にしっかりと読み込んでください。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 社会の理解 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

分かりやすいように授業を進めていきますので、しっかり授業に参加してください。また、分からない点があれば、積極的に確認してください。

- 9 教員氏名 （ 山崎 紘史 ）
所 属 （ 社会福祉法人 実寿穂会 ）
実務経験の詳細（ 介護施設にて社会福祉士として勤務 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 社会と制度の理解Ⅰ ）

回数	授業内容
1	第1章 私たちの生活と社会福祉 第1節 生活とは
2	第1章 私たちの生活と社会福祉 第2節 家族とは
3	第1章 私たちの生活と社会福祉 第3節 地域社会と個人
4	第1章 私たちの生活と社会福祉 第4節 人と社会・組織
5	第1章 私たちの生活と社会福祉 第5節 現代におけるライフスタイルの変化
6	第1章 私たちの生活と社会福祉 第6節 生活の支援と福祉の体系
7	第2章 社会保障のしくみ 第1節 社会保障の基本的な考え方
8	第2章 社会保障のしくみ 第2節 日本の社会保障制度の発達
9	第2章 社会保障のしくみ 第3節 日本の社会保障制度のしくみ①
10	第2章 社会保障のしくみ 第3節 日本の社会保障制度のしくみ②
11	第2章 社会保障のしくみ 第4節 現代社会と社会保障の制度
12	第3章 介護保険制度 第1節 介護保険制度創設の目的
13	第3章 介護保険制度 第2節 介護保険制度のしくみ
14	講義振り返り・ポイント復習・レポート
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (コミュニケーション技術)

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の概要

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

2 到達目標

- ①対象者のコミュニケーションの状態を、ICF 基づいてアセスメントできる。
- ②個々の介護場面に応じたコミュニケーション技術を習得し、実践することができる。
- ③チームにおけるコミュニケーションとして、記録、報告、連絡、相談、会議、情報管理などにおける技法を実践できる。

3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義やグループワークを中心に行う。

4 成績評価方法・基準

中間試験 30% 定期試験 30% 提出物 15% 授業態度 15% 授業への貢献度 10%

5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワーク、演習での役割、発表などの実績を評価します。通年科目ですが、前期終了時に中間試験を実施します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業では教科書以外の事例、演習も用いることがあります。事前に教科書の演習に目を通し、自分なりの答えを導き出してください。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） コミュニケーション技術 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

コミュニケーション技術は介護福祉士の専門性の中核を成しています。「実践できる」レベルで修得できるよう、授業に取り組んでください。

9 教員氏名 (谷口 幸太郎)

所 属 (ところ医療福祉専門学校 介護福祉科)

実務経験の詳細 (介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（コミュニケーション技術）

回数	授業内容
1	オリエンテーション コミュニケーションとは
2	コミュニケーションの基本①
3	コミュニケーションの基本②
4	言語・非言語・準言語コミュニケーション
5	コミュニケーション演習①
6	対人援助職のコミュニケーション
7	集団でのコミュニケーション
8	コミュニケーション障害への対応の基本
9	視覚障害のある人とのコミュニケーション
10	聴覚障害のある人とのコミュニケーション
11	認知症のある人とのコミュニケーション
12	コミュニケーション演習②
13	コミュニケーションにおける距離とは
14	前期まとめ
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	構音障害のある人とのコミュニケーション
18	失語症のある人とのコミュニケーション
19	コミュニケーション演習③
20	うつ病・抑うつ状態、統合失調症、精神障害のある人とのコミュニケーション
21	発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害のある人とのコミュニケーション
22	コミュニケーション演習④
23	家族とのコミュニケーション
24	介護における記録について
25	報告・連絡・相談について
26	コミュニケーション演習⑤
27	意思決定支援のコミュニケーション
28	コミュニケーション演習⑥
29	コミュニケーション演習⑦
30	後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（生活支援技術 A（実技基礎））

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

介護サービスを提供するあらゆる場面で汎用できる基本的な介護の技術を理解する。尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識や技術や知識を取得する学習とする。

2 到達目標

基本的な生活支援の理解に関する知識と具体的な支援方法を学ぶとともに、様々な生活場面において自立支援の観点から根拠に基づいた介護実践ができる。

3 授業の方法

普通教室にて講義，介護実習室にて実技の授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 40% 実技チェックテスト 40% 授業・演習態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度やグループワークでの役割などを考慮します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内でおこなった学習を振り返り，繰り返し練習することで身体に身につけるようにしてください。また，国家試験に出題される語句については教科書にマーカーをつけ覚えるようにします。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術Ⅰ 中央法規出版

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

授業内でも声をしっかり出していきましょう。

9 教員氏名（谷口 幸太郎 / 井手口 弘明）

所 属（こころ医療福祉専門学校 介護福祉科）

経 験（両名とも介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 生活支援技術 A（実技基礎） ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 生活支援の理解
2	オリエンテーション 身だしなみ, 感染予防
3	ボディメカニクス
4	ボディメカニクス
5	休息・睡眠の介護 特殊寝台の機能, 基本操作
6	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
7	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
8	休息・睡眠の介護 ベットメイキング
9	移動の介護
10	移動の介護
11	移動の介護
12	移動の介護
13	移乗の介護
14	移乗の介護
15	移乗の介護
16	移乗の介護
17	移乗の介護
18	移乗の介護
19	身支度の介護 整容
20	身支度の介護 整容
21	身支度の介護 着脱介助
22	身支度の介護 着脱介助
23	身支度の介護 着脱介助
24	身支度の介護 着脱介助
25	実技チェックテスト
26	実技チェックテスト
27	食事の介護
28	食事の介護
29	振り返り・まとめ
30	定期試験
31	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術C（住居／被服）（住居） ）

学科名 介護福祉科
学年 1年

- 1 授業の内容
私たちが意識しないままに、何気なく過ごしている「生活」とは何かを理解し、その「生活」を支えるために何が必要なのかを居住環境の整備の観点から把握する。
- 2 到達目標
住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識が理解できるようになる。
- 3 授業の方法
普通教室にて座学、およびグループワーク
- 4 成績評価方法・基準
定期試験 70% 授業態度 30%
- 5 評価の際の特記事項
特になし
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
新聞に目を通したり、ニュースを見たりする。
- 7 使用教材，教具
最新・介護福祉士養成講座（第2版） 生活支援技術 I 中央法規出版
- 8 学生へのメッセージ
提示された課題（居住環境に関する課題）に対し、自学やグループワークなどを行うことにより、課題解決のプロセスを考察して自分の考えをアウトプットできるようになる。
- 9 教員氏名 （ 奈良崎 博一 ）
所 属 （ 社会福祉法人 ながよ光彩会 ）
実務経験の詳細（ 病院および介護施設にて理学療法士として勤務経験あり ）
- 10 特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目名（生活支援技術C（住居／被服）（住居））

回数	授業内容
1	人が安心して快適に暮らすために必要な環境の整備とは何か、その意義と必要性について理解する。
2	高齢者や障害のある人の住まいの多様性について学ぶ。
3	生活の場の考え方を理解する。
4	住まいに関連した環境問題について学ぶ。
5	国際生活分類(ICF)と居住環境整備におけるアセスメントの視点を学ぶ。
6	住まいにおける安心・快適な室内環境の確保について学ぶ。
7	集団生活の場においても「利用者のこれまでの暮らし」を継続させるための視点、環境整備の工夫を学ぶ。
8	住居環境の整備にかかわる職種とその役割について学ぶ。
9	事例からチームケアのあり方を具体的に学ぶ。
10	定期試験
11	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護過程 I ）

学科名 介護福祉科

学 年 1年

1 授業の内容

利用者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する学習とする。

2 到達目標

①各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護過程の意義・目的を理解し、自分の言葉で説明できる。

②介護実践に必要な観察力・判断力およびPDCAなどの思考課程を理解する。

③利用者の望む生活の実現のために必要な情報（アセスメント）とは何かを、主体となって考えることができる。

3 授業の方法

普通教室にて、教科書、配付プリント用いた講義や事例検討（演習）、およびグループワークを中心に行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 40% 事例検討課題 20% 授業態度 15% 授業への貢献度 10%
小テスト 15%

5 評価の際の特記事項

授業への貢献度については、教員からの問いに対する発言、グループワークでの司会、発表などの実績を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

出された課題には必ず取り組んでから、授業にのぞんでください。

7 使用教材・教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 介護過程 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

「利用者を知ること」の大切さ、アセスメントの重要性への理解を深めていきましょう。日頃から、自己・他者に対し関心を持つことと、想像力が大切です。

9 教員氏名 （ 谷口 幸太郎 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (介護過程 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	介護過程について
3	アセスメントとは
4	情報収集について学ぶ
5	情報収集のための観察力
6	観察力を身につける
7	アセスメントのための対象者理解①
8	アセスメントのための対象者理解②
9	演習① 動画から情報収集
10	演習② 動画から情報収集
11	演習③ 動画から情報収集
12	演習④ 動画から情報収集
13	情報の解釈・関連付け・統合化について
14	生活課題の明確化について
15	セルフアセスメントをしてみよう①
16	セルフアセスメントをしてみよう②
17	介護計画の立案について①
18	介護計画の立案について②
19	事例検討1－①
20	事例検討1－②
21	事例検討1－③
22	事例検討1－④
23	事例検討1 解説
24	事例検討1 解説
25	事例検討2－①
26	事例検討2－②
27	事例検討2－③
28	事例検討2－④
29	事例検討2 解説
30	事例検討2 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護総合演習Ⅰ ）

学科名 介護福祉科
学年 1年

1 授業の内容

介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習をする。

2 到達目標

- ①実習の教育効果を上げる為に、事前に実習施設についての理解を深めると共に、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践につながる事ができる。
- ②実習を振り返り、専門職としての態度を養う事ができる。
 - ・介護実習の必要性とその意義を理解することができる。
 - ・挨拶、礼儀、マナーを身につけることができる。
 - ・利用者理解、情報収集、分析等の情報処理が適切にでき、介護過程へと展開することができる。
 - ・見る、聞く、話す、書く、察する、まとめる力を身に付けることができる。

3 授業の方法

普通教室にて、実習の手引きや配付プリントを用いた講義、学生自身による調べ学習また実習に行くにあたり必要な提出書類の作成、演習を中心に行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 40% 授業態度 20% 提出物 20% 第1段階実習報告会 20%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前学習：目標・個人票は、自宅で考案・作成し、教員に許可を得る。

7 使用教材、教具

こころ医療福祉専門学校 介護実習の手引き、配付資料

8 学生へのメッセージ

介護実習の意義を理解し、実習前、実習中、実習後に必要な学習内容を一つひとつ確認していきましょう。また、他の科目との関連性、学校での学びと実習との関連性について理解していきましょう。

9 教員氏名 （ 谷口 幸太郎 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 介護総合演習Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 介護実習とは
2	第1段階実習について
3	各施設について事前学習①
4	各施設について事前学習②
5	第1段階実習 実習先選定
6	介護実習連絡帳の配付と記入
7	介護実習連絡帳の記入
8	実習記録の書き方
9	実習施設事前訪問について
10	実習の心構えについて
11	第1段階実習事前指導
12	第1段階実習振り返り・お礼状作成
13	第1段階実習報告会準備①
14	第1段階実習報告会準備②
15	第1段階実習報告会
16	第2段階実習について
17	各施設について事前学習③
18	各施設について事前学習④
19	レクリエーション準備
20	レクリエーション準備
21	第3段階事例検討報告会参加への準備
22	第2段階実習 実習先選定
23	介護実習連絡帳の配付と記入
24	介護実習連絡帳の記入
25	第2段階実習 実習課題の説明
26	実習施設事前訪問について
27	アセスメント演習①
28	アセスメント演習②
29	アセスメント演習③
30	第2段階実習事前指導

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習 ）

学科名 介護福祉科

学年 1, 2年

1 授業の概要

福祉施設にて1年次に10日間(第1段階)、22日間(第2段階)の実習を、2年次に25日間(第3段階)の介護実習を行う。

2 到達目標

【第1段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を理解する。
- イ 介護が必要な人のニーズやさまざまな暮らしの場を理解する。
- ウ 介護施設、ならびに介護福祉職の一般的な役割について理解する。
- エ コミュニケーションの基礎的な技術を実践することができる。
- オ 尊厳を支えるケアや本人主体の自立支援の理解を深めることができる。

【第2段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を実践できる。
- イ 一人の利用者に関するアセスメントをし、生活課題を明確化できる。
- ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を模倣できる。
- エ 介護現場における多職種協働・連携について理解することができる。
- オ コミュニケーション能力の向上につとめ、利用者及び職員と人間関係を構築することができる。

【第3段階実習】

- ア 専門職としての適性およびふさわしい態度を身につける。
- イ 利用者の個別性を理解した上で、介護過程を展開することができる。
- ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を選択し、実施できる。
- エ 様々な介護福祉関連業務を経験することができる。
- オ 介護現場における地域とのつながりについて理解することができる。

3 授業の方法

介護を必要とする人への支援のあり方や関わりについて、各授業で習得した知識や技術を用いて実際の介護現場で見学、模倣、実施から学ぶ実習である。

4 成績評価方法・基準

実習評価表 30% 巡回指導時の学習態度 20% 実習記録 20% 実習成果物 30%

5 評価の際の特記事項

評価はすべての実習が終了した2年次後期に行います。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各科目の教科書、実習の手引き、実習施設の資料など熟読すること。

7 使用教材、教具

介護実習の手引き、配布資料

8 学生へのメッセージ

何を学びたいのか明確にした上で、積極的に取り組みましょう。

- 9 教員氏名 (谷口 幸太郎, 吉田 直美, 廣瀬 佑)
 所 属 (こころ医療福祉専門学校 介護福祉科)
 実務経験の詳細 谷 口：介護施設にて介護福祉士として勤務経験あり
 吉 田：病院, 介護施設にて看護師として勤務経験あり

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (介護実習)

回数	授業内容
第1段階	【実習期間, 時間】 第1段階実習 1年次7月 80時間 (1日8時間×10日間)
	【実習内容】 第1段階実習は、コミュニケーションを中心に、介護が必要な人のニーズや暮らしの場の理解、並びに介護福祉職の一般的な役割について理解をする。また、様々な対象者へのケアを見学し、個々に応じた生活支援技術の実際を学び、尊厳を支えるケアや介護に本人主体の自立支援についての理解を深める。
	【実施項目】 ア 介護を必要とする人とのコミュニケーションを経験する。 イ 介護実践の現場における生活支援技術を見学する。
第2段階	【実習期間, 時間】 第2段階実習 1年次2～3月 176時間 (1日8時間×22日間)
	【実習内容】 第2段階実習は、介護過程におけるアセスメントを行い、生活課題の明確化まで行う実習です。一人の利用者への直接的な情報収集や他職種、介護記録等からの間接的な情報収集を通して、生活の全体像や本人の思い(ニーズ)を理解し、生活課題を明確化していきます。また、様々な利用者へのケアを通して、個々に応じたコミュニケーションの実践、生活支援技術の模倣、実施を経験し、技術の向上につとめます。
	【実施項目】 ア 介護過程におけるアセスメントを実施する。 イ 個別の状況に応じた生活支援技術を見学、及び模倣する。 ウ 様々な対象者に応じたコミュニケーションを、学んだ技術を用いて実践する。 エ 介護現場におけるレクリエーションを経験する。(可能な場合に限る)
第3段階	【実習期間, 時間】 第3段階実習 2年次8～9月 200時間 (1日8時間×25日間)
	【実習内容】 第3段階実習は、介護過程の展開を実践する実習です。一人の利用者に対して、「アセスメント→介護計画の立案→介護の実施→評価」を行い、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程の展開を実践的に学ぶと共に、介護福祉士の専門性について理解を深めます。また養成課程最後の実習であり、これまで授業で学んだ知識や技術を統合した上で、介護福祉職として必要な知識・技術の習得・向上につとめます。
	【実施項目】 ア 一人の対象者に関するアセスメントを行い、介護計画を作成する。 イ 作成した介護計画をもとに、介護の実施を行い、評価を行う。 ウ 個別の状況に応じた生活支援技術を模倣、及び実施する。 エ 早出・遅出・夜勤等の業務を経験する。(可能な場合に限る) オ レクリエーションを企画し、実施する。(可能な場合に限る)

シラバス（授業計画書）

科目名（発達と老化の理解）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

老化が与える心理的な影響を理解し、高齢者の精神疾患を中心にその治療的ケアを、一部事例を交えて学ぶ。

2 到達目標

老化の心理的影響とそれによる精神疾患，治療的ケアを中心に基礎的な用語を理解・習得していく。介護福祉士国家試験を想定し，苦手分野を克服する。

3 授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義の他国家試験問題の頻出問題を重点的に実施する。

4 成績評価方法・基準

中間試験 45% 定期試験 45% 授業態度 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は総合点に影響があります。通年科目ですが，前期終了時に中間試験を実施し，成績評価を行います。通年科目ですが，前期終了時に中間試験を実施します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

この教科は，国家試験でも8問出ます。小テストでも何回も繰り返しワークノートを作りましょう。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 発達と老化の理解 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

配付資料は疾患別や心理学者別等こまめにファイリングしてください。

9 教員氏名 （ 吉田 直美 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (発達と老化の理解)

回数	授業内容
1	人間の発達段階と発達課題 ① ピアジェ ・ エリクソン
2	人間の発達段階と発達課題 ② フロイト ・ ハヴェーガースト
3	身体的機能の発達と、心理的機能の発達
4	老年期の特徴と発達課題①
5	老年期の特徴と発達課題②
6	老化に伴うこころとからだの変化と生活:身体的な変化①
7	老化に伴うこころとからだの変化と生活:身体的な変化②
8	老化に伴うこころとからだの変化と生活:心理的な変化①
9	老化に伴うこころとからだの変化と生活:心理的な変化②
10	老化に伴うこころとからだの変化と生活:社会的な変化①
11	老化に伴うこころとからだの変化と生活:社会的な変化②
12	健康長寿に向けての健康①
13	健康長寿に向けての健康②
14	復習・確認テスト
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	高齢者に多い症状・疾患の特徴
18	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 骨格系・筋系①
19	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 骨格系・筋系②
20	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 骨格系・筋系③
21	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 脳・神経①
22	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 脳・神経②
23	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 皮膚・感覚器系
24	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 循環器系①
25	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 循環器系②
26	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 呼吸器系
27	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 消化器系
28	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 腎・泌尿器系 内分泌・代謝系
29	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 歯、口腔疾患 ・ 悪性新生物
30	高齢者に多い疾患と。生活上の留意点 感染症・精神疾患
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 認知症の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

認知症の人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，認知症の人を中心に捉え，本人や家族，地域の力をいかした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。講義とグループワーク中心に学習する。

2 到達目標

- ①知症ケアの歴史や理念を含む，認知症を取り巻く社会的環境について理解する内容とする。
- ②学的・心理的側面から，認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し，生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。
- ③知症の人の生活および家族や社会との関わりへの影響を理解し，その人の特性を踏まえたアセスメントを行い，本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。
- ④認知症の人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。

3 授業の方法

PCプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書と認知症ケア指導管理士の教科書を使用し，講義内容は国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

中間試験 40% 定期試験 40% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は，質問の返答，グループワークでの積極性等を総合的に判断します。通年科目ですが，前期終了時に中間試験を実施します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って，事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材，教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 認知症の理解 中央法規出版
認知症ケア指導管理士試験的テキスト 改訂版 一般社団法人総合ケア推進協議会慣習

8 学生へのメッセージ

認知症の人に理解を深め，我々が関わることで認知症を患ってもその人らしい生活を送れるような支援のできる介護実践を身につけましょう。

9 教員氏名 （ 吉田直美 ）

所 属 （ ころろ医療福祉専門学校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細 （ 病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（認知症の理解）

回数	授業内容
1	認知症のある高齢者の現状と今後
2	脳のしくみ
3	中核症状の理解
4	BPSD の理解
5	生活障害の理解
6	認知症の診断と重症度
7	認知症の原因疾患と症状 ①アルツハイマー型認知症・血管性認知症
8	認知症の原因疾患と症状 ②レビー小体型認知症・ピック病
9	認知症の原因疾患と症状 ③正常圧水頭症・慢性硬膜下血腫・若年性認知症
10	各認知症の復習・小テスト
11	認知症スケールについて
12	認知症の治療薬 認知症の予防
13	認知症ケアの歴史と理念
14	プレテスト・解説
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	認知症ケアの実際①
18	認知症ケアの実際②
19	認知症ケアの実際③
20	介護者支援
21	認知症の人の地域生活支援
22	認知症ケア指導管理士試験対策 1章、2章、3章、
23	認知症ケア指導管理士試験対策 4章、5章、6章、
24	認知症ケア指導管理士試験対策 7章、8章
25	認知症ケア指導管理士試験対策 9章
26	認知症ケア指導管理士試験対策10章
27	過去問①模擬試験
28	過去問解説
29	過去問解説
30	プレテスト・解説
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（障害の理解 I）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得すると共に，障害のある人の地域での生活を理解し，本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。

2 到達目標

①障害のある人の生活を支援するという観点から，障害の概念や，障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する内容とする。

②医学的・心理的側面から，障害による心身への影響や心理的な変化を理解する内容とする。

③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ，機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し，QOLを高める支援につながる内容とする。

④障害のある人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。

3 授業の方法

事例を交え，ビデオ教材の使用。教科書を使用し，国家試験を見据えて重要事項を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度は，質問の返答，グループワークでの積極性等を総合的に判断します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って，事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材，教具

最新 介護福祉士養成講座 障害の理解 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

障害は，生まれた時からある人もいれば，病気や事故，あるいは年をとることによって発生する場合もあり，誰にでも生じる可能性のある身近なものです。そして，障害にはさまざまな種類があり，同じ障害でもその人ごとに症状や程度は違います。また，外見だけではわからない障害もあります。

障害のある人は，日常生活や社会生活を送る中で，不便なことや困難に感じていることがたくさんあります。そして，これらの中には社会によって作り出されたものが多く，周囲の人の理解やサポートがあれば，不便さや困難さを感じないで済むことがあります。

障害及び障害のある人に対する理解を深めていただき介護福祉士として活躍してもらいたいです。

9 教員氏名 (吉田 直美)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 介護福祉科)

実務経験の詳細 (病院，介護施設にて看護師として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (障害の理解 I)

回数	授業内容
1	肢体不自由児(運動機能障害)の基礎的理解
2	視覚障害の基本的理解
3	聴覚・言語の基本的理解
4	重複障害の基本的理解
5	重症心身障害児の基本的理解
6	知的障害の基本的理解
7	精神障害の基本的理解
8	高次脳機能障害の基本的理解
9	発達障害の基本的理解
10	難病の基本的理解
11	国家試験問題 過去問①
12	解答解説
13	国家試験問題 過去問②
14	解答解説
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ ころとからだのしくみⅠ ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習

2 到達目標

- ・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。
- ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、ころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。
- ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。

3 授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義である。教科書を使用し、講義内容を、国家試験を見据えて重要項目を重点的に講義する。

4 成績評価方法・基準

中間試験 40% 定期試験 40% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

小テストも評価します。通年科目ですが、前期終了時に中間試験を実施します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） ころとからだのしくみ 中央法規出版
介護福祉士国家試験模擬試験問題集

8 学生へのメッセージ

人が生活をするうえで、心と体はどのように働くのか示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を学びます。さらに疾病の発生のメカニズムを学ぶことによって、「予防の視点」を身につけましょう。また、移動、身支度、食事、入浴、排泄、睡眠等の生活場面ごとに、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントを知りましょう。国家試験に備えて苦手分野の克服、自信をもって国家試験に臨めるよう数多くの問題に挑戦しましょう。

9 教員氏名 (吉田 直美)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 介護福祉科)

実務経験の詳細 (病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (こころとからだのしくみ I)

回数	授業内容
1	からだのしくみを理解する。(人体の構造と機能(各種名称)・脳神経)
2	からだのしくみを理解する。(循環器・呼吸器)
3	からだのしくみを理解する。(消化器・泌尿器)
4	からだのしくみを理解する。(骨・筋肉)
5	からだのしくみを理解する。(生殖器・内分泌)
6	からだのしくみを理解する。(生命を維持するしくみ)
7	からだのしくみに関する復習 ・確認テスト
8	こころのしくみを理解する。(マズローの欲求階層説 ・ 脳のしくみ)
9	こころのしくみを理解する。(認知・記憶・感情のしくみ)
10	こころのしくみを理解する。(適応規制について)
11	こころのしくみに関する復習 ・ 確認テスト
12	移動に関連したこころとからだのしくみ (移動のしくみ)
13	移動に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が移動に及ぼす影響)
14	復習及び確認テスト
15	中間試験
16	答案返却と解説
17	身支度に関連したこころとからだのしくみ (身支度のしくみ①)
18	身支度に関連したこころとからだのしくみ (身支度のしくみ②)
19	身支度に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が身支度に及ぼす影響)
20	食事に関連したこころとからだのしくみ (食事のしくみ・摂食嚥下の5期モデル)
21	食事に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が食事に及ぼす影響)
22	食事に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)
23	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が及ぼす影響)
24	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)
25	排泄に関連したこころとからだのしくみ (排泄のしくみ)
26	排泄に関連したこころとからだのしくみ (心身の機能低下が排泄に及ぼす影響)
27	排泄に関連したこころとからだのしくみ (変化の気づきと対応)
28	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
29	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ
30	復習及び確認テスト
31	定期試験
32	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 機能的解剖学 ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

介護・福祉の現場で活躍されている多くの方々が腰痛で悩んでいるというデータがある。そこで、介護福祉士に必要な解剖学・運動学に基づく身体活動（運動）を通して学び、対象者や介護福祉士自身に応用できるような解剖学の知識を習得する。

2 到達目標

対象者の介護や介護福祉士自身のセルフマネジメントに応用できるような解剖学の知識を習得する。

3 授業の方法

普通教室にて講義，介護実習室にて実技の授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 60% 実技試験 40%

5 評価の際の特記事項

実技試験では介護福祉士としてのマナーも評価対象とします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内で行った学習を放課後や自宅でも振り返り，繰り返し練習することで身につけるようにしてください。

7 使用教材，教具

配付資料 実技の際は実習着を着用

8 学生へのメッセージ

介護技術中心の授業になります。しっかり身体で覚えて行きましょう

9 教員氏名 (田中 努)

所 属 (ころろ医療福祉専門学校 理学療法科)

実務経験の詳細 (病院にて理学療法士として勤務経験あり)

10 特記事項

実技経験のある教員による授業科目

科目名 (機能的解剖学)

回数	授業内容
1	機能解剖と運動感覚を用いた介護方法
2	介護に運動感覚の概念を導入する
3	対象者との情報交換の方法について
4	介護における機能解剖の理解を深める
5	人の動きの理解を深める
6	人の機能の理解を深める
7	「力」の概念を介護に応用する
8	介護における環境整備を考える
9	介助への応用「上方移動」
10	介助への応用「横方移動」
11	介助への応用「側臥位」
12	介助への応用「座位」
13	介助への応用「立位」
14	介助への応用「立位移動」
15	定期試験
16	答案返却と解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療的ケア I ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

2 到達目標

医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する。

3 授業の方法

PC とプロジェクターを利用したパワーポイントによる講義のほか器具の名称、感染対策、手順を理解させる為座学以外に演習も行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 10% 小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

授業態度、積極性は高く評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進捗計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。授業で配付する資料は各自がファイリングすること。

7 使用教材、教具

最新・介護福祉士養成講座（第2版） 医療的ケア 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

介護保険法等一部改正法により、平成27年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等を行うことが可能となったため、介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となりました。

命を預かる行為です。真面目な態度で取り組んでください。

9 教員氏名（ 中島 幹子 ）

実務経験の詳細（ 病院、介護施設にて看護師として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (医療的ケア I)

回数	授業内容
1	医療的ケアとは DVD にて喀痰吸引、経管栄養を理解する。
2	喀痰吸引制度のついて
3	呼吸のしくみとはたらき①
4	呼吸のしくみとはたらき②
5	呼吸のしくみとはたらき③
6	消化器系のしくみとはたらき①
7	消化器系のしくみとはたらき②
8	消化器系のしくみとはたらき③
9	介護保険制度、障害者総合福祉法、健康保険法について
10	安全な療養生活
11	救急蘇生法の実際・演習
12	健康状態の把握①
13	健康状態の把握②
14	バイタル測定①
15	バイタル測定②
16	復習・確認テスト
17	定期試験
18	答案返却と解説